

研究員が表彰されました!

当研究所の研究員が、その功績が認められ表彰を受けました。

全国環境研協議会 関東甲信静支部 支部長表彰 受賞

環境資源研究科 小泉 裕靖 主任研究員



大気環境学会 大気環境学会論文賞

環境資源研究科 星 純也 副参事研究員

環境資源研究科 國分 優孝 研究員



日本水環境学会 地域水環境行政研究委員会 優秀論文賞

環境資源研究科 石井 裕一 主任研究員

環境資源研究科 安藤 晴夫 研究員



第23回 東京湾シンポジウム・ ポスターセッション最優秀賞

環境資源研究科 石井 裕一 主任研究員



CONTENTS

研究員が表彰されました!

活動報告 水・大気環境連携セミナー
— 地域環境研究の未来に向けて — を開催しました

活動報告 第43回八口ゲン化有機汚染物質シンポジウム
国際会議参加報告

活動報告 REEFふくしま2023の視察と
スペイン・バスク州との交流

出展報告

第41回江東区民まつり中央まつり、
にしとうきょう環境フェスティバル2023

活動報告 第34回廃棄物資源循環学会発表会

活動報告 施設見学受け入れ

お知らせ 東京都環境科学研究所 公開研究発表会を開催します



活動報告

水・大気環境連携セミナー ―地域環境研究の未来に向けて―を開催しました

環境資源研究科 主任研究員 石井 裕一

2023年10月31日(火)、「水・大気環境連携セミナー ―地域環境研究の未来に向けて―」を対面・オンライン併用のハイブリッド形式で開催しました。本セミナーは大気環境学会地方環境研究所等委員会と日本水環境学会地域水環境行政研究委員会が主催し、全国環境研協議会、埼玉県環境科学国際センター及び当研究所が共催したものです。本セミナーの開催にあたっては、今村研究所長、上野環境資源研究科長、私(水環境研究チーム長)の3名がそれぞれ「全国環境研協議会企画部会長」「大気環境学会地方環境研究所等委員会委員長」「日本水環境学会地域水環境行政研究委員会副幹事長」という立場で実行委員会に参画し、企画・運営を行いました。



上野環境資源研究科長



石井水環境研究チーム長

本セミナーでは、水環境分野・大気環境分野を横断する重要なテーマである「窒素循環」に焦点を当て、特別講演として環境省水・大気環境局から、「環境省における水・大気環境行政の最近の動向について」を講演いただきました。次に日本水環境学会および大気環境学会の紹介がなされ、上野科長から大気環境学会の最近の取組が紹介されました。続いて基調講演として、総合地球環境学研究所および国立環境研究所の研究者から、「窒素管理に関する国際的な動向」、「廃棄窒素排出と削減ポテンシャルの評価について」、それぞれ講演いただきました。私が座長を務めたセミナーの後半では、日本水環境学会および大気環境学会のそれぞれの

学会で窒素循環に係る研究分野の第一線でご活躍されている研究者から最新の研究成果について発表いただきました。当研究所からは、大気環境研究チームの齊藤主任研究員から「硝酸アンモニウム粒子の生成に起因したPM2.5の高濃度化現象」と題した講演がなされ、参加者との質疑応答も活発に行われました。最後に、今村所長より本セミナーの講評がなされ、盛況のうちに閉会となりました。

「水環境」「大気環境」という異分野のコラボレーション企画でしたが、両分野の多くの研究者の興味を引くテーマ設定ができたこともあり、当研究所大会議室にて講演いただいた講師の方々、オンライン参加いただいた一般の参加者を併せて400名に迫る聴講者を得た、たいへん盛況なセミナーとなりました。



齊藤主任研究員



今村研究所長

このセミナーで、窒素循環に関する理解の深化が図られたことは勿論のこと、水環境―大気環境の連携や、セミナーの副題にも掲げた「地域環境研究」の在り方を改めて考えるよい切っ掛けになりました。今後もこうした機会を活用し、研究所の活性化、プレゼンスの向上に貢献していきます。



活動報告 第43回ハロゲン化有機汚染物質シンポジウム国際会議参加報告

環境リスク研究科 主任研究員 西野 貴裕

2023年9月10日(日)～14日(木)にオランダのマーストリヒトにて第43回ハロゲン化有機汚染物質シンポジウム国際会議が開催され、成果の報告をしてまいりました。コロナ禍以降、初めての国際学会への参加でしたが、参加者はほぼ全員ノーマスクで、陽気な雰囲気です議論を交わしていました。

羽田空港からマーストリヒトまでは、いったんパリのシャルル・ド・ゴール空港で乗り換え、アムステルダムスキポール空港に計20時間近くかけて到着後、さらに列車で2時間半ほどかかり、移動だけでほぼ1日を費やしました。

現地は、気候が東京と比べてかなり穏やかで、出発当時は茹だるような暑さに辟易しながら羽田空港を飛び立ちましたが、マーストリヒトは日中もカラッとした陽気で、朝方は寒いと感じるぐらいの気温でした。また、街中を歩くと右のようにお寿司屋さんがいくつかあり、現地のお客さんでしっかり埋め尽くされていて、日本人として嬉しく思いました。実際、夕食のために、そのうちの1店に入りましたが、とても美味しく日本で食べる味とほとんど変わらない印象を受けました。

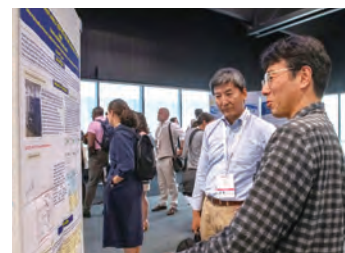


周辺には寿司屋が数件あり

さて、本題に入りますが、私の方では、前回報告した第57回水環境学会年会に引き続き、高速液体クロマトグラフ飛行時間型質量分析計(LC-QTOFMS)を使った「東京都内の河川水試料や事業場排水試料中に存在する有機化学物質のスクリーニングについて」ポスター発表を行いました。具体的な内容としては、医薬品類などヒトの日常生活を通じて環境中に排出される化学物質が多く検出された事例を報告しました。水環境学会年会のごときと同様、私のポスターの前に多くの研究者の方が興味を示してくださり、「緊急時は前処理している時間も惜しいと思うが、何か対策を考えているか?」「排水など夾雑物の多い試料にも有用なのか?」など質問も数多く受けました。反省点として、私の語学力ではまだ口頭発表後の質疑応答において質問の意図をしっかりと把握する自信がありませんが、ラジオ講座や英語のアプリを使って、聞き取りや話す力を養っていき、自己研鑽に努めています(本当はネイティブの方と話す機会があれば良いのですが。。。)。



本会議の会場(MECC Maastricht)



ポスター発表風景



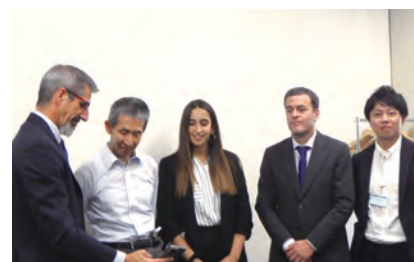
活動報告 REIFふくしま2023の視察とスペイン・バスク州のとの交流

次世代エネルギー研究科 主任研究員 小谷野 眞司

「ふくしま再生可能エネルギー産業フェア(REIF*ふくしま2023)」を視察するため、10月13日に会場のビッグパレットふくしま(郡山市)を訪問しました。このフェアは、今回で12回目を迎える福島県等が主催するイベントです。様々な再生可能エネルギーや水素、燃料電池・蓄電池、省エネなどに関連したおおよそ170の企業・団体の出展のほか、会場では、専門家による講演や企業等によるセミナーも開催されました。

この視察では、特に、ドイツNRW州ブースでの先進的な水電解水素製造装置の説明を聞いたことや、「水素に関する国内外の動向と福島県内水素関連プロジェクト」のセミナー受講などは、当研究科の研究に資する情報を得ることができました。

また、このフェアに出展している東京都産業労働局とスペイン・バスク州内の研究機関との交流の場に同席させていただいたことをきっかけに、バスク州のバスク・エネルギー・クラスター(Basque Energy Cluster)とテクナリア(Tecnalia)という研究機関の方を、本国に帰国される前に当研究所にお招きし(日本にあるバスク州政府貿易投資事務所の方にも同席頂きました)、水素エネルギー拡大に向けた取組状況等に関する情報交換の場を10月18日に持ちました。世界各国で水素エネルギーの利用に向けた大規模プロジェクトが推し進められている中、スペインの主要工業都市であるバスク州の現況などを直接伺うことが出来たことは貴重なものとなりました。今後も交流を重ねられるように努めたいと考えています。



スペイン・バスク州の関係者の方々と当研究所長(左から2番目)

※REIFは、Renewable Energy Industrial Fair(再生可能エネルギー産業フェア)の頭文字



PRイベント出展報告 第41回江東区民まつり中央まつり、 にしとうきょう環境フェスティバル2023

東京都気候変動適応センター

東京都気候変動適応センターは、10月14日(土曜日)、都立木場公園で開催された「第41回江東区民まつり中央まつり」にブース出展しました。今回のまつりのメインテーマは「世代をつなぐ心のふれあい」でした。当センターでも気候変動適応啓発ポスターや猛暑日日数の分布図に関するポスターをご覧いただき、気候変動に関するクイズを小さなお子様やご高齢の方等を含む約300名の方に回答してもらいました。

また、11月11日(土曜日)及び12日(日曜日)には、西東京いきの森公園で開催された「にしとうきょう環境フェスティバル2023」にブース出展しました。啓発ポスターや展示、クイズだけでなく、西東京市のコミュニティFM「エフエム西東京」を通じて気候変動適応を知っていただきました。

都民の皆様一人ひとりが気候変動適応策を進めていくために、今後も認知度向上のための啓発に力を入れて参ります。



「第41回江東区民まつり中央まつり」の様子



「にしとうきょう環境フェスティバル2023」の様子



活動報告 第34回廃棄物資源循環学会研究発表会

環境資源研究科 長谷川 明良

大阪工業大学、大宮キャンパスで9月11日(月)から13日(水)に掛けて、第34回廃棄物資源循環学会研究発表会が開催され、口頭197件、ポスターセッション87件が発表されました。

口頭発表については、発表時間、質問時間が短いにも関わらず、セッション会場内外で活発な意見交換がされました。当研究所からは、「食品容器包装プラスチックの樹脂などの組成分析及び判別方法について」として積層プラスチックが多く使われている食品の容器包装の樹脂や素材について複数の判別方法を比較分析し、その課題について整理した研究、「流動床式焼却炉からの飛灰の脱塩について」として流動床炉からの飛灰について脱塩処理を行い、セメントの原料化を可能にする研究を発表しました。また、ポスターセッションでは、「近赤外線分光光度計によるプラスチック判別における判別精度向上に関する研究」として複合材質プラスチックにおける材質と配合量の推定が可能であることを明らかにした研究を発表しました。この他にもプラスチックやごみ排出を取り巻く最新動向についての特別プログラム・基調講演・パネルディスカッション、建設系廃棄物他リサイクル施設への見学会が開催されました。



会場 大阪工業大学



口頭発表



ポスターセッション

質と配合量の推定が可能であることを明らかにした研究を発表しました。この他にもプラスチックやごみ排出を取り巻く最新動向についての特別プログラム・基調講演・パネルディスカッション、建設系廃棄物他リサイクル施設への見学会が開催されました。



活動報告 施設見学受け入れ

研究調整課 研究調整係

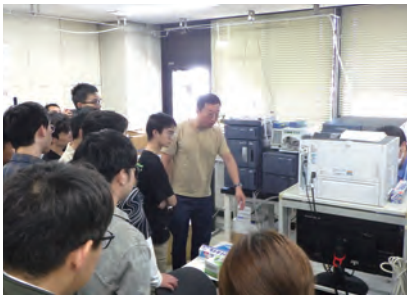
当研究所では、日頃の研究成果や研究施設を知っていただくため、施設見学を受け入れています。今年度は10月末の時点で150名を超える見学者にお越しいただきました。

自動車環境対策、大気汚染対策、有害化学物質、水環境などに関する研究について幅広く紹介・情報交換を行っています。海外からの訪問も含めた、施設見学の様子をご紹介します。

10月12日(木曜日)

鄭州大学(中国) 大学生15名様

中国から鄭州大学の皆様にお越しいただきました。化学を専攻されていることもあり、当日は多くのご質問をいただき、当所の研究員の説明にも熱がこもっていました。

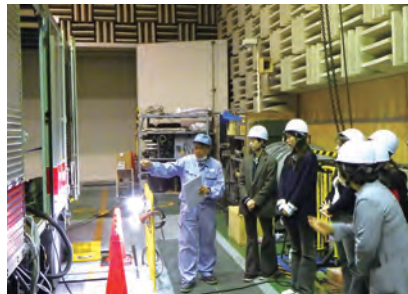


10月17日(火曜日)

大妻女子大学 大学生5名様

化学物質の環境リスクをテーマとしたゼミに所属する学生の皆様にお越しいただきました。

いくつかの施設を見学してもらいましたが、特に自動車排出ガス測定装置はインパクトがあり貴重な経験ができたというご意見を頂戴しました。



**施設見学に関する
お問い合わせはこちらまで!**

東京都環境科学研究所 広報担当

電話 03-3699-1333 e-mail:kanken@tokyokankyo.jp

お知らせ

東京都環境科学研究所 公開研究発表会を開催します

東京都環境科学研究所は、都民の皆様や企業・自治体職員の方々に日頃の調査・研究の成果を広く知っていただくため、毎年、公開研究発表会を開催しています。

今年度は都民ホールでの現地開催を予定しておりますので、是非お越しください。

令和5年度 東京都環境科学研究所 公開研究発表会

日時 令和6年 1月12日(金)

午後1時30分から午後4時40分(13時開場)

場所 都民ホール(都庁 都議会議事堂1階)

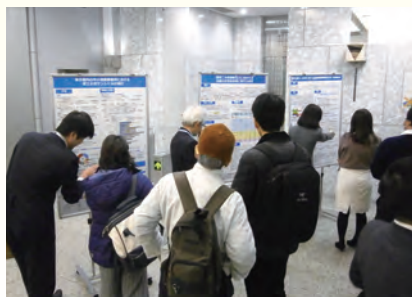
当日の発表の様様をオンライン配信します。詳細が決まり次第、当研究所のホームページでご案内します。

定員 250名(予約不要・入場無料)

内容 外部講師を招いた特別講演のほか、研究員による4件の研究発表を行います。
また、午後1時から1時30分まで、午後4時40分～午後5時10分まではロビーにてポスター発表を行います。



平成31年度の公開研究発表会の様子



※開催方式や内容は変更となる可能性があります。期日が近づきましたら、当研究所のホームページにて詳しい案内をいたしますのでご確認ください。

<https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>

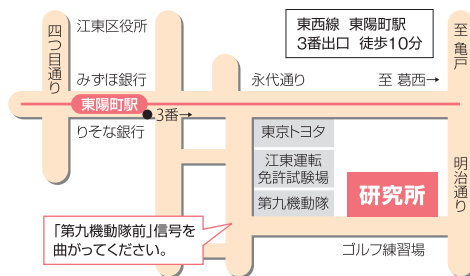
●記事へのご意見がございましたら下記へお寄せください。

【発行】東京都環境局総務部環境政策課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
TEL 03(5388)3426(ダイヤルイン)

【編集】公益財団法人 東京都環境科学研究所
東京都環境公社
〒136-0075 東京都江東区新砂一丁目7番5号
TEL 03(3699)1333 FAX 03(3699)1345
2023年12月発行
メールアドレス/kanken@tokyokankyo.jp

登録番号 第(3)103号
環境資料第35047号

ホームページ <https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。